

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価及び
地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

飛騨市公共交通会議 (飛騨市)

平成 1 8 年 1 1 月 9 日 設置

令和 3 年 3 月 3 0 日 飛騨市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和 3 年 3 月～令和 8 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

評価対象期間（令和 6 年 1 0 月～令和 7 年 9 月）

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

【主な方針】

最低限のサービス水準を極力確保し、持続可能な地域公共交通網を形成し、維持する。

【目標】

- 整備・運行 : 市民のQOLの保障（通学・通院・買物の足）
- 持続性 : 一定の事業費内で維持、一定の収支率、利用者数の維持
- 利用促進・啓発 : 市民の理解度向上、意識改革、観光客の満足度向上

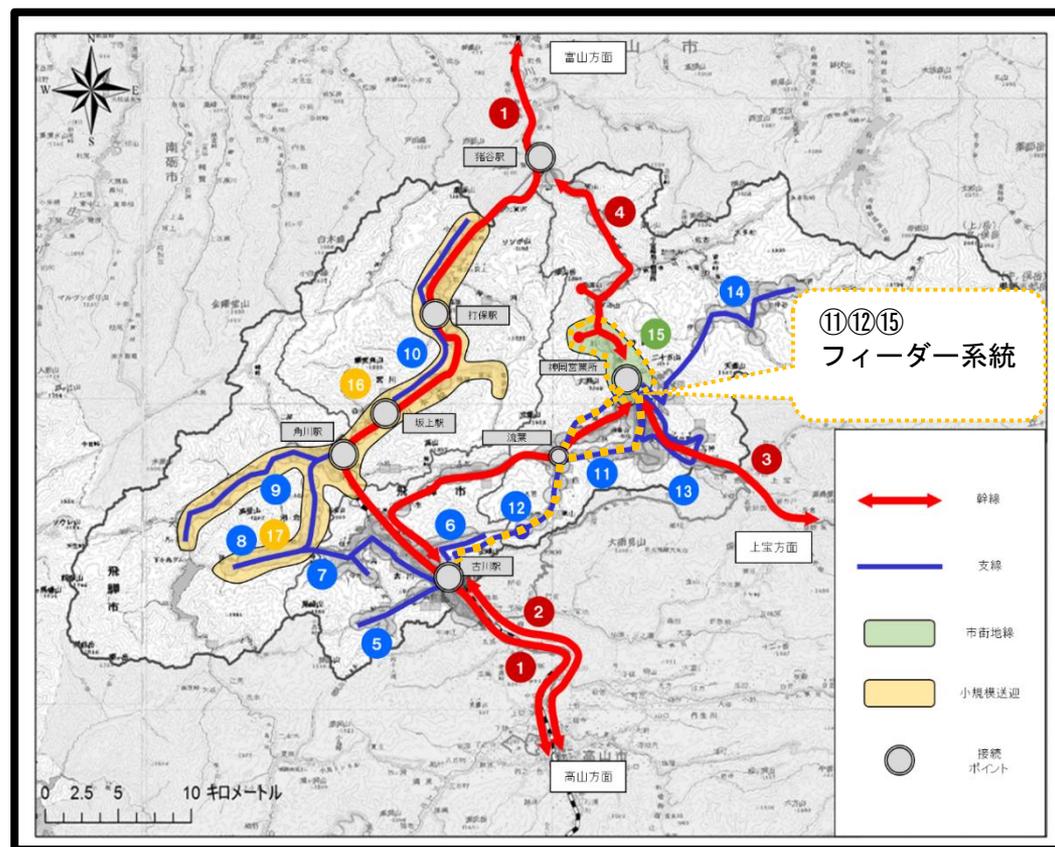
【期間】

飛騨市地域公共交通計画

: 令和3年3月～令和8年3月

地域の特性

古川町	町の中心部は平地であり、過去より公共交通を利用して移動する文化がない。
河合町 宮川町	人口が少なく、集落が点在している。デマンド運行実施。
神岡町	町内全体が起伏の多い地形であり、高齢者が徒歩だけで生活するのは困難。公共交通の利用が多い。



事業名	内容	実績・効果
<p>①-1神岡猪谷線の見直し</p>	<p>神岡猪谷線の利用者減少、経費高騰を鑑みて、路線の見直しを実施。特に利用の少なかった平日の4便（2往復）、および土日祝日の全便の運行を減便し、平日6便（3往復）のみの運行とした。また、沿線にある観光施設利用との接続を改善するため、一部の便の運行時間の見直しを行った。（令和7年10月から）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●乗降調査による利用者数 利用者総数：122名 うち、減便対象便：11名 期間：令和7年4月12日～18日 方法：乗客へのアンケート調査
<p>①-2神岡猪谷線の減便に対する代替交通の運行開始</p>	<p>上記の見直しによる住民生活への影響を考慮して、予約制で平日の減便時間帯にのみ運行する「神岡北部乗合タクシー」の運行を開始した。運行委託先は神岡町内にあるタクシー事業者とし、人手不足対策として、市職員が兼業で運転手を務める取り組みも並行して開始した。（令和7年10月から）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●対象路線の利用者数 利用者総数：41名 うち、06：00～08：00 35名 18：00～19：30 6名 運行回数：33回 乗合率：約1.2人 （令和7年10月～11月実績）



事業名	内容	実績・効果
②市内商業施設まで路線の延伸	<p>【桃源郷線】 一部の便について、「道の駅アルプ飛騨古川」への延伸を行い、新しくオープンした地場産市場や最寄りのスーパーへの立ち寄りも可能になった。</p> <p>【天生線、宮川線】 一部の便について、利用者がいれば、飛騨古川駅まで引き続き運行することとし、古川町内の病院や商業施設へのアクセスが可能になった。</p>	<p>【桃源郷線】 道の駅までの利用者はまったく見られず、スーパーへの立ち寄りが一週間に1度の頻度で利用者がいるのみ。</p> <p>【天生線、宮川線】 平均すると、天生線では月に1～2回程度、宮川線では月の運行の1/3が、飛騨古川駅まで運行している。</p>
③古川地区での住民との意見交換	<p>古川地区で公共交通利用に関する意見交換会を実施した。（令和7年6月高野地区、令和7年7月畦畑地区） 地域を運行するバスの通学や通院利用の状況や課題について意見を交わした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通を利用することのメリットを説明し、利用促進を図った。 ●利用者のいなくなったバス停移設の合意形成ができた。



飛騨産直市そやな



住民説明会の様子（畦畑区）

区分	目標 (R6末)	目標	実績	評価
整備 ・ 運行	市民のQOLを確保	通院・買物・通学における公共交通カバー率 100%	【通院】 99.0% 【買物】 99.0% 【高校通学】 98.4%	○
持続 性	利用客数の維持	42,500人 (全体)	33,052人 各路線別の数値は次ページ	△
	収支率の維持	5% (全体)	3.1% (令和7年度実績)	△
	事業費の抑制	1億5千万円 (全体)	1億9千万円 (令和6年度 決算)	△
利用 促進 ・ 啓発	市民の理解度の向上	市民と協働したイベント(セミナー、住民懇談会等)の実施回数 年4回以上	・東茂住地区での説明会 R7.7-8 大学関係者 10名参加 R7.8 地域住民 20名参加 ・古川地区での説明会 R7.6 高野地区 2名参加 R7.7 畦畑地区 5名参加	○
	公共交通の維持に協力する市民の比率向上	上記目標に定めるイベントへの参加者数 合計100名以上		△
	おでかけの手段としての認識向上	ひだしおでかけ時刻表及びマップの区長配布 年1回以上 広報ひだによる記事掲載 年4回	時刻表・マップの配布 10月1日 約7,500世配布済み 広報ひだ10月号、11月号記事掲載 チラシ配布(市内回覧)9月	△

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

【各路線の利用人数】 (フ) : フィーダー系統補助対象

単位 : 人

路線名 ※フィーダー補助路線	目標値	R7年度 利用客数	R6年度 利用客数	R1年度 利用者数	対前年比	対R元年度比
畦畑線	1,000	323	649	951	49.76%	33.96%
太江線	1,000	1,069	1,211	1,079	88.27%	99.07%
桃源郷線	4,800	2,987	3,657	4,788	81.67%	62.38%
稲越線	500	25	40	918	62.50%	2.72%
天生線	2,850	665	993	3,030	66.96%	21.94%
宮川線	2,100	863	848	1,847	101.76%	46.72%
吉田線 (フ)	5,500	6,012	5,433	—	110.65%	—
神原線 (フ)	1,500	2,334	2,229	1,284	104.71%	181.77%
神岡東部線 (殿循環線含む)	2,300	2,403	2,551	2,417	94.19%	99.42%
山之村線	1,450	933	1,031	1,329	90.49%	70.20%
かみおか循環線 (フ) (かみおかぐるりんバス)	10,000	11,761	10,766	9,864	109.24%	119.23%
河合・宮川乗合タクシー	2,500	2,969	3,359	1,972	88.38%	150.55%
稲越乗合タクシー	1,000	708	1,162	—	60.92%	—
合計	42,500	33,052	33,929	33,707	97.41%	※78.12%

※コロナ禍のためR1との比較としています。

A:26,332 (吉田線・稲越乗合タクシー除く)

※Aとの比較

【各地域別の利用状況の考察】

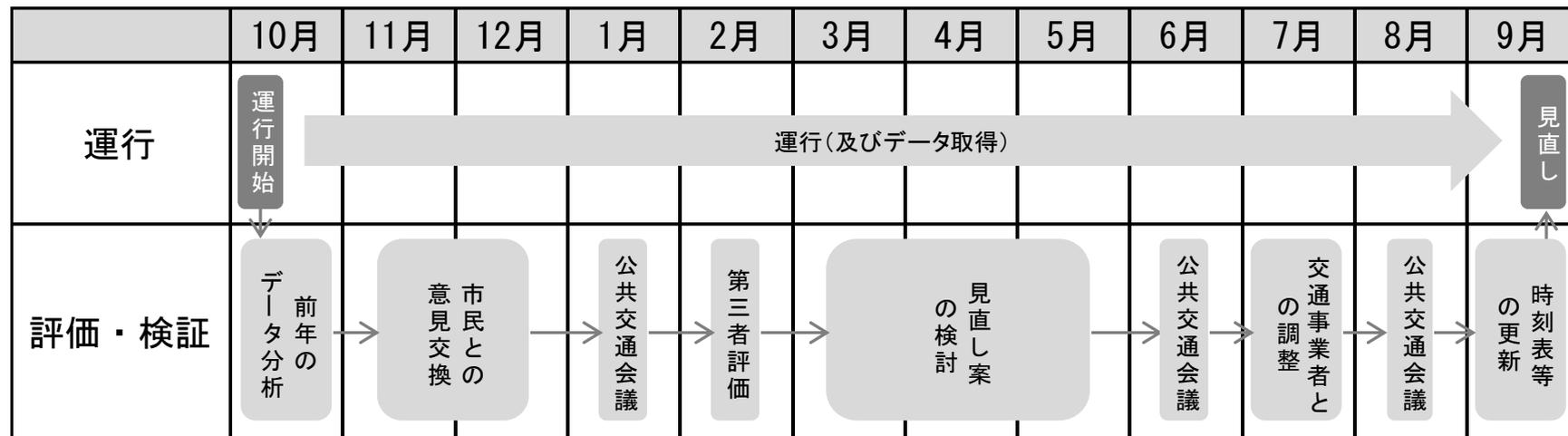
地域	考察と今後の取組
古川町	高校通学等の定期利用者数によって毎年利用者数変動している。今年度の大幅な減少についても通学利用者数の影響が大きい。高校通学以外では、病院デマンド便（希望により市街地内医療機関まで運行）により通院しやすい路線となっている。買物の利便性を上げるため、R6.10再編によって一部の路線でこれまでバスで行けなかった商業施設まで経路を延伸させたが、 <u>利用は限定的となっている。</u> 引き続き効果検証に努め、利用者のニーズに合わせた見直しを行っていく。
河合町 宮川町	昨年度までの傾向として、地域内の利用者数は、乗合タクシーは増加、バスは減少している状況が続いていたが、 <u>今年度は乗合タクシーの利用者も減少に転じている。</u> これは地域内の高齢者人口の減少とも関連性があるとみられ、バスと乗合タクシーを組み合わせで構築してきた地域の公共交通サービスを、大きく見直す必要がある。
神岡町	R5.10再編の影響が広がっており、地域全体の人口は年々減少しているものの、町内全体のバス利用者は、 <u>昨年度に引き続き増加する結果</u> となった。この水準を維持できるよう幅広い情報発信、利用促進を継続していく。

区分	目標	計画達成に向けた今後の取組
整備 ・ 運行	市民のQOLを確保	ドライバー不足が引き続き課題となっている。 <u>市職員の兼業制度の活用によって試験的にドライバーズバンクの運用を開始</u> しており、今後これを拡大して、利用者、事業者、市が一体となって公共交通を維持する取り組みとしていく。
持続性	利用客数の維持	利用者数の維持のために路線の見直しを行ってきたが、 <u>利用の多い路線は引き続き利用促進に努め、少ない路線は重点的に見直しを進める</u> 等、路線ごとに対応方針を変える必要がある。
	収支率の維持 事業費の抑制	燃料費・人件費高騰が続いており、事業費が膨らみ続けている。R7.10再編ではやむを得ず一部の路線の減便を行った。次期計画では目標設定を見直し、公共交通サービスの持続可能性を高める取り組みにシフトチェンジしていく。
利用促進 ・ 啓発	市民の理解度の向上	広報ひだや区長配布などを活用し、継続して情報発信や利用促進事業を実施してきた。他団体と協力して、市営バスのマスコットキャラクターの作成や、バスの乗り方教室を兼ねた公共交通ツアーやセミナー等、市民参加型のイベントも行い、 <u>公共交通機関全体の露出は増えている</u> 。こういった取り組みを継続しながら、路線の見直し等について住民説明会を実施する等、丁寧な周知徹底に努めていく。
	公共交通の維持に協力する市民の比率向上	
	おでかけの手段としての認識向上	

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和6年度	<p>運転者不足による路線の維持に対する課題について、引き続き、運送事業者とのコミュニケーションを図り、人材確保や育成に係る取組や支援を検討され、公共交通の確保維持に努められることを期待します。</p>	<p>運転手不足に対して、市職員の兼業制度を活用し、職員が一部の路線のドライバーを務める取組を開始した。</p>	<p>この取組みを拡大し、地域で支える公共交通の実現に努める。</p>
	<p>地域間幹線系統である高山古川線について、引き続き、輸送量等の現状把握に努めるとともに、岐阜県、高山市、運行事業者等関係者と連携して更なる利用促進を図るよう期待します。</p>	<p>濃飛乗合自動車をはじめとする交通事業者との意見交換会（R7.7）、飛騨市地域公共交通会議の事業者部会（R7.10）を開催し、公共交通に係る現状・課題の共有、事業継続のための支援施策の検討を行った。</p>	<p>引き続き事業者とのコミュニケーションを積極的に行う。地域公共交通会議の事業者部会を定例化する。</p>
令和5年度	<p>公共交通に対する理解や利用を促進する取組については、開催回数や参加人数の把握に加え、対象者に伝わっているか、その後の利用につながっているかなど、引き続き、分析・検証し、今後の取組につなげていかれることを期待します。</p>	<p>路線再編の際には、地元説明会を開催しており、今回はこれに加えてバスの乗り方教室を兼ねたモニターツアーを計画し開催した。</p>	<p>モニターツアーは、参加者から好評を得ており、今後は各団体との連携し、市内行事において、公共交通と組み合わせた企画を計画し実施していく。</p>
	<p>運転手不足による路線の維持といった課題について、引き続き、運送事業者とコミュニケーションを図り、人材確保や育成に係る取組や支援を検討され、公共交通の確保維持に努められることを期待します。</p>	<p>運転手不足は、重点課題と捉え、各運行事業者とのヒアリングを実施。交通事業者に対する新たな補助事業を創設し、支援策を拡充した。</p>	<p>事業者における具体的な問題を精査し、ドライバー確保体制構築に向けて、抜本的な対策を検討していく。</p>
	<p>令和5年度に実施されたルートやダイヤの見直しについては、利用状況や利用者の声など可能な範囲で分析や検証を進め、その効果を確認し、更なる取組に活用されることに期待します。</p>	<p>神岡町内を中心に乗込調査、聞取調査を随時実施し、利用状況の把握に努めた。</p>	<p>利用状況調査は引き続き実施していく。</p>

※前回：令和7年3月27日、前々回：令和6年3月21日

毎年実施するPDCAの推進サイクル（地域公共交通計画より）



直近1年間の公共交通会議の開催実績

開催日	主な協議事項
令和7年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持事業について 令和7年度予算案、事業計画について
令和7年8月25日	<ul style="list-style-type: none"> ひだまる路線の見直しについて (神岡猪谷線、神岡北部乗合タクシー、畦畑線)
令和7年10月29日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次飛騨市公共交通計画について
令和7年12月25日	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通計画の評価について